

# 農作物生育・技術情報10号

日高農業改良普及センター日高西部支所  
JAびらとり JA門別町

## 1 水 稲

### ○収穫後のほ場管理

#### (1) 稲わらの処理

稲わらは、ほ場に放置せず速やかに搬出しましょう。

#### (2) 透排水性の改善

溝掘りで表面排水、必要に応じ、心土破碎を実施しましょう。

秋起こしを行う場合は、水田の乾燥状態を確認し早め（地温があるうちに）に行いましょう。

#### (3) 畦などの確認

畦の補修や排水溝の掃除を行い、機能を回復させましょう。

#### (4) 土壌診断の実施

低タンパク米生産のためにも、3年に1度は水田の土壌診断を行い、収量や地力に合わせて肥料の見直しを行いましょう。また、苗床のpH確認も合わせて行いましょう。

## 2 主要野菜

作物名	生育状況	技術対策
トマト	<ul style="list-style-type: none"> <li>5～10段収穫中。</li> <li>灰色かび病、すすかび病、うどんこ病、ハモグリバエ類、茎えそ細菌病、裂果が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ハウスの閉めきりは避ける。</li> <li>夕方は早めにハウスを閉める、内張りカーテンや暖房機を使用するなど、夜温13℃以上を確保するよう努める。</li> <li>老化葉は摘葉し、通気性をよくする。</li> </ul>
ハウス軟白ねぎ	<ul style="list-style-type: none"> <li>6月定植収穫中。</li> <li>ハモグリバエ類、アザミウマ類、葉先枯れ症状が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>もみ殻は搬出する。</li> <li>土壌病害虫が発生したほ場は計画的に土壌消毒を行う。</li> </ul>
アスパラガス (ハウス立茎)	<ul style="list-style-type: none"> <li>9月下旬に収穫終了した。</li> <li>茎葉の黄化が始まっている。</li> <li>灰色かび病、斑点病が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ハウスを開放し、茎葉の黄化を促す。</li> <li>茎葉が80%以上黄化し、地際部の茎の中がストロー状になったのを確認してから刈り取る。</li> </ul>
きゅうり (勇翔、ちなつ、オーシャン)	<ul style="list-style-type: none"> <li>生育は順調で、中～上段位の孫づるの収穫が進んでいる。</li> <li>うどんこ病、べと病の発生が一部のほ場で見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>うどんこ病、べと病の防除には、予防効果の高い薬剤と、治療効果を伴う薬剤を使い分け、防除効果を高める。</li> <li>気温の低下が予想される場合は、夜温13℃を目安に内張りカーテン等で保温する。</li> </ul>

### 3 畑 作

(1) 秋まき小麦の雪腐病防除（なまぐさ黒穂病防除）

令和4年度産は、積雪が多かったこともあり、雪腐病の発生が見られました。防除時期は根雪直前が最も効果が高くなりますが、ほ場状態や作業の都合で散布できない場合がありますので遅れないように防除しましょう。散布後に降雨に遭遇すると効果が低下しますので、残効性の優れた薬剤を選択してください。

《防除例》フロンサイドSC 1000倍

【残効の目安】 散布後根雪までの積算降水量120mm（日最大降水量65mm）

### 4 畜 産

○牧草

(1) 牧草の最終刈り取り

牧草の越冬のため、牧草に十分な再生量と貯蔵養分を蓄えさせましょう。

「刈取り危険帯」の刈取りを避けましょう。

刈取り危険帯	
アルファルファ	9月下旬～10月中旬
オーチャードグラス	10月中旬～下旬
ベレニアルライグラス	10月中旬～下旬

(2) 雑草処理

- ・採草地でのギシギシ類の秋処理による防除は、最終採草後に行い、降霜前までに終わらしましょう。
- ・ギシギシ類への除草剤の散布時期は、葉が手のひら大になった時期を目安にします。
- ・新播草地は、更新後のギシギシ類の発生状況を確認し、除草剤散布を行いましょう。薬量が経年草地と異なるため、以下の表を参考に適正散布を心がけましょう。

薬剤名	使用濃度・注意点 (水量100ℓ/10a)	
	新播草地	経年草地
アージラン液剤	10月上旬～中旬 薬量：200ml～300ml/10a ※春期には種した草地にのみ使用	10月上旬～中旬 薬量：300ml～400ml/10a
ハーモニー75DF 水和剤	薬量：0.5～1.0g/10a ※ギシギシの葉が展開し、ギシギシ草丈が20cm以下	薬量：3g/10a

○サイレージ用とうもろこし

- ・収穫後の堆肥の施用上限はK<sub>2</sub>Oで20kg/10a相当量以下とし、堆肥の分析値がない場合、施用上限量は5t/10aを目安として下さい。
- ・堆肥の施用時期は、10月中旬以降、積雪、土壌凍結前までとし、散布後は土壌と混和します。

### 5 農作業安全対策

【農作業安全の実践・確認項目】

- 休憩を取り無理のない作業
- 農作業や機械作業に適した服装
- 点検・整備は、必ずエンジン停止
- 油断せず後方確認、足下注意
- 農道の走行時は路肩の状況を確認

